



「地域おこし協力隊」ってなに？

「地域おこし協力隊」は、人口減少・高齢化が進む地方へ、都市部の人材が移住し、さまざまな支援活動を展開する制度で、令和元年度には全国1,071自治体で5,349名の隊員が活躍しています。

先日、県内の過疎地を訪れた時に、20代の女性が直売所を手伝っており、よくよく聞いてみると「地域おこし協力隊で、関東から来ました。」ということでした。

「熱い想いで協力隊になったのに、地域住民が変わろうとしない」「協力隊の若者が全く地域の輪に入ろうとしない」など、問題点も多く指摘されるこの制度ですが、協力隊員のおかげで地域が活性化している好例もたくさんあります。過疎化が進む新潟県でも、これからもこの制度に期待したいですね。



「Eco列車でいこう！」～第141回～ 新潟平野の水鏡と朝どり野菜。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！) 

5月15日(土)深夜2:45。このまま眠っていたいが、がんばって身支度をし、3:10に家を出る。新潟西バイパスから国道116号線へ。西川の体育館を右折し、角田山の稲島登山口には3:45に到着した。あたりはまだ真っ暗だ。ヘッドライトを装着して登山開始。このルートは階段が多く登りやすいが、早起きしたカラダにはキツイ。空が徐々に白んできて、ヘッドライトを外す。約40分で新潟平野を見渡す展望スポット「観音堂」の広場に到着した。

すでに20人くらいの人が「ご来光」を待っている。まもなく、日の出時間の4:33になった。水を張った水田に、強烈なオレンジの光が差し込む。日本有数の水田地帯ならではの「絶景」だ。

「さあ、今日も1日が始まるゾ。」と太陽が言っているかのようで、皆、しばらく無言でその光景を目に焼き付けていた。

夜が明けて、あたりを見渡すと登山道は新緑に染まっている。気持ち良く早朝散歩を楽しみ、頂上標識まで行って折り返した。

下山後、日本海沿いの国道402号線を経由して「白山の朝市」へ。おばあちゃんと会話を楽しみ、朝取りのブロッコリーやきゅうりを買って家路に着いた。

帰宅後、ブロッコリーはゆでてマヨネーズで。茎の部分はベーコンと炒めて、きゅうりは塩昆布で浅漬けに。新鮮でおいしい朝食を食べ終わっても、まだ7:30。

早起きしたから時間は有り余っている。さて、今日は何をしようか？



この時期限定の「水鏡」



登山道は新緑につつまれて



花も多く咲いていた